

高品質で機能性に優れた精麦用二条裸麦品種 「キラリモチ」の特性

農業総合センター農業研究所

近年の健康志向の高まりから、生活習慣病の予防の効果が期待できる麦飯が注目されています。特に、「キラリモチ」((国研)西日本農業研究センター育成)は、機能性が高く、良食味であることから実需者ニーズが高まっています。そこで、茨城県における「キラリモチ」の生育特性や精麦加工適性を評価した結果、優れた評価が得られたため、平成29年に認定品種に採用しました。

「キラリモチ」の機能性と食味

「キラリモチ」には、β-グルカン(水溶性食物繊維)が多く含まれます。β-グルカンには、①血中コレステロール濃度の正常化、②食後の血糖上昇抑制、③内臓脂肪面積抑制といった効果が期待できます。

また、モチ性で食味が良く、炊飯後に褐変しにくい(プロアントシアニジンフリー)特性があります(写真1)。

表 「キラリモチ」の生育と収量

品種	出穂期 (月・日)	成熟期 (月・日)	稈長 (cm)	穂長 (cm)
キラリモチ	4.6	5.21	73	6.2
ミカモゴールド	4.7	5.19	91	5.1

品種	穂数 (本/m ²)	容積重 (g/l)	千粒重 (g)	子実重 (kg/10a)
キラリモチ	841	852	34.7	421
ミカモゴールド	775	720	38.0	419

- 1) 試験年次:平成21年~28年(データは8年間の平均値)
- 2) 試験圃場:茨城県龍ケ崎市(中粗粒灰色低地土)
- 3) 播種期:11月上旬

栽培上の留意点

- 1) 穂発芽性が「易」のため、適期収穫を心掛けてください。
- 2) 六条大麦と交雑すると、モチ性やプロアントシアニジンフリー、裸麦の特性を失った子実ができる恐れがあるため、六条大麦が近くにない場所で栽培してください。
- 3) 赤かび病の防除は六条大麦と同時期(出穂後3日頃)に実施します。
- 4) 凍霜害を受けると、遅れ穂が発生する傾向があります。



写真1 「キラリモチ」と「イチバンボシ」の炊飯18時間後の褐変の様子
(左:「キラリモチ」右:「イチバンボシ」)
※西日本農業研究センター作物開発利用研究領域
畑作物育種グループ原図

「キラリモチ」の生育特性

オオムギ縮萎縮ウイルスI・II・III・V型系統に抵抗性です(本県の二条大麦の主力品種である「ミカモゴールド」はI・II型系統に抵抗性、III・IV・V型系統に罹病性)。

11月上旬播種で出穂期は4月6日頃、成熟期は5月21日頃です。また、短稈で倒伏しにくい品種です。穂数はかなり多く、収量は「ミカモゴールド」と同等です(表)。



写真2 「キラリモチ」の出穂期頃の立毛状況
(左:「キラリモチ」右:「ミカモゴールド」)